令和４年６月１６日

立入が丘小学校３年生「総合的な学習の時間」

住吉神社調査隊の質問事項に対する説明

【火祭りについて】

１．火祭りは、いつごろから始まったのですか。

はっきりと書かれたものがないので確かなことは分かりませんが、約８００年前からと言われています。

言い伝えによれば、今から約８００年前の鎌倉時代に、土御門天皇（つちみかどてんのう）という人が重い病気になられてなかなか回復しなかったそうです。
天皇の病気はこの地に棲む（すむ）大蛇が災い（わざわい）しているからだということで、大蛇を焼き払って退治したところ病気が治ったと言われています。
そこから、大蛇に見立てて造った松明（たいまつ）を燃やして、一年の無病息災を祈願（きがん）するようになったと伝えられています。

２．何のために火祭りをするのですか。

８００年以上続く伝統行事で、滋賀県選択無形民俗文化財にもなっています。
この立派な伝統行事を後世（こうせい）に残し、次世代へ引き継いでいくために行われています。

大蛇を焼き払って退治したとき、頭の部分が浮気に、胴体が勝部に、しっぽが大津の瀬田に落ちたと言われており、住吉神社では頭の部分を燃やしています。
今では、瀬田の火祭りはなくなっており、住吉神社と勝部神社で続けています。

３．火祭りは、どんな人たちがするのですか。

浮気町に住んでいる住吉神社の氏子で、数え歳で１５歳から７０歳までの男性（分かりやすく言うと、浮気町に住んでいる住吉神社の会員で、満１３歳の中学１年生から６８歳までの男性）が参加することになっていて、以前は５０人以上居ましたが、少子高齢化が進み、今では３０人足らずになってきています。

補足しますと、１５歳から３４歳までの若い人を知新連中（ちしんれんちゅう）、３５歳以上の年配者を神事中（じんじちゅう）と呼んでいます。

人数が減少することで、「松明を造る人」、「松明を担ぐ人」、が足らないといった大きな問題になってきており、火祭りを存続させていくために実施方法の見直しが検討されているところです。

火祭りで燃やす松明は、お正月の１月３日朝から１日かけて造ります。

火祭りは、毎年１月の第二土曜日に開催します。
当日は、朝１０時から式典を行い、続いてお弓の神事（しんじ）が行われます。

午後から、町内各所に奉ってある松明を神社に担ぎ入れて奉納します。
担ぎ入れの時には、境内で「綿菓子」と「ポップコーン」の無料配布をしているので、子供を連れて大勢の人が来られます。

松明は、柴（しば)、竹、わら、荒縄（あらなわ）で造り、全部燃やさずに、頭の部分だけ（柴の先、大黒、よだれ掛け）を燃やします。
松明に火が付きやすいように、前に菜種殻（なたねがら)、わら、枯れ柴を置きます。

夜７時に拝殿前に整列してお祓い（おはらい）を受け、続いて仮屋と呼んでいる建物の中で儀式を行ない、その後に着物を脱いでふんどし姿になります。
開始の合図とともにヘイヨ、ヘイヨ（平癒）と言いながら、われ先にとかまどの火を奪い合い、わらで作った手松明に火が付けば、消されないようにして仮屋から飛び出し、松明に点火します。

松明の頭の部分が燃えたのを確認し、神社の外へ担ぎ出し、川に漬けて火を消します。
松明をすべて出した後、太鼓を打ち鳴らしながら神社から運び出して火祭りは終了となります。（午後８時過ぎ）

【住吉神社について】

１．住吉神社は、誰が建てたのですか。
奈良時代の天平十一年（西暦７３９年）に、物部道足（もののべ のみちたり）が建て、住吉三神（すみよしさんしん）を祀り（まつり）ました。

のちに、南方約１００ｍの地に俗称サンヤレ山という小高い丘のあった物部神社の祭神の櫛玉命（くしたま の みこと）、饒速日命（にぎはやひ の みこと）を合祀（ごうし）しています。

神殿は、鎌倉時代の承久二年（西暦１２２０年）に浮気源九郎貞勝が再建し、ついで江戸時代の寛永十六年（西暦１６３９年）に再度再建したと伝えられています。

住吉神社に祀（まつ）られているもの
住吉三神（すみよしさんしん）　・・・　海の神
表筒男命（うわつつのお の みこと）
中筒男命（なかつつのお の みこと）
底筒男命（そこつつのお の みこと）
櫛玉命（くしたま の みこと）
饒速日命（にぎはやひ の みこと）　・・・　物部氏の祖